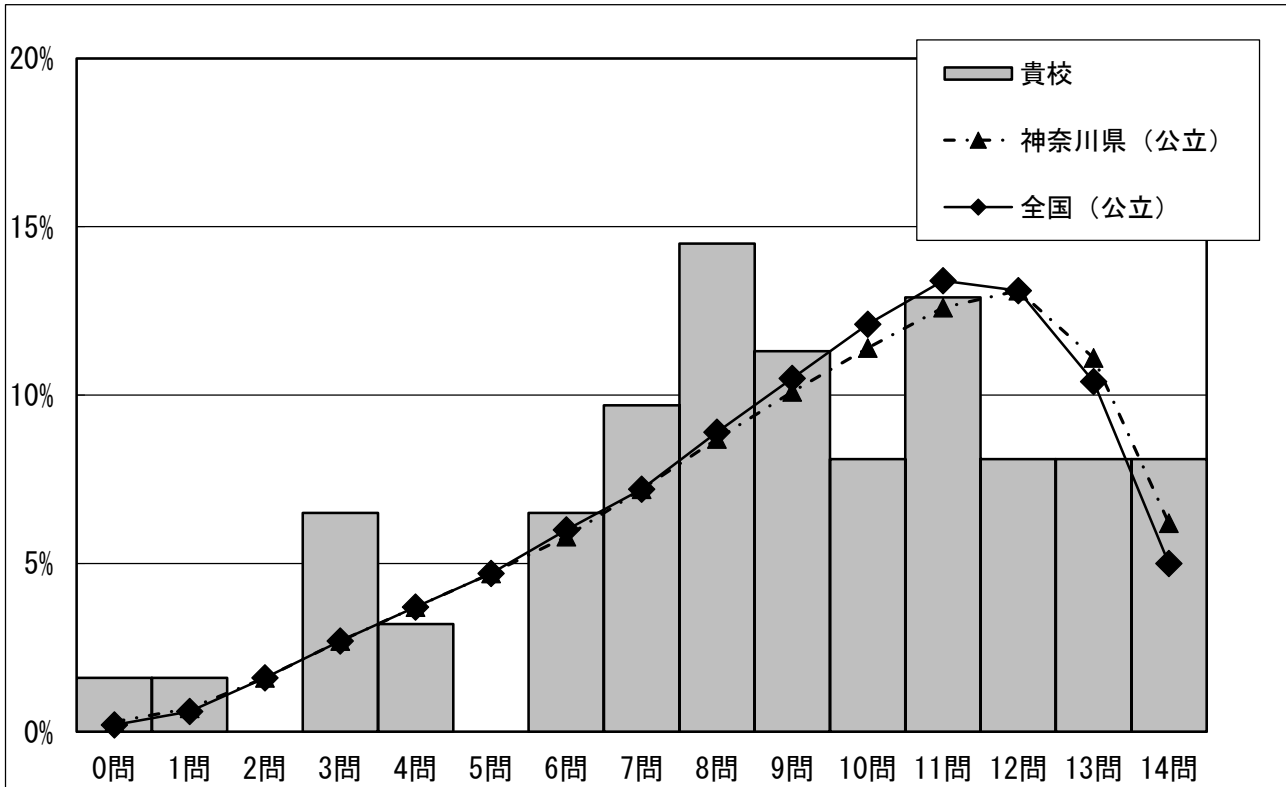


【算数の結果】

算数 【主として知識】 正答数分布グラフ 横軸 正答数 縦軸 割合



◇よいと考えられる状況

- ・「長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ」(正答率 93.5%) 「1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ」(正答率 93.5%) では、多くの子どもが理解できていることが分かった。
- ・「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」(正答率 53.2%) 「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」(正答率 62.9%) では、県・全国の平均を5%以上超える高い正答率であり、よく理解し活用できていることが分かった。
- ・【計算力】【式の意味・理解】【図形への理解】などについては、県・全国平均と同レベルで正答できしており、知識・理解や計算力などの算数の基礎・基本となる力は身に付けることができている。

◆指導・改善が必要と考えられる状況

- ・「2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができる」(正答率 71.0%) 「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」(正答率 77.4%) 「目的に適した伴って変わる二つの数量を見出すことができる」(正答率 77.4%) では、県・全国平均を5%程度下回っている。また、「資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」(正答率 46.8%) 「示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる」(正答率 58.1%) 「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」(正答率 50.0%) では、県・全国平均を10%程度下回っている。
- ・これらの結果から、「日常生活の中でも課題を意識し、与えられた表や数量などを正確に取り取り、計算の仕方や求め方について説明したり判断したりする」「既習事項を生かし、立式や理由の説明、結果の判断といった自ら課題の解決に向かおうとする」などの指導を継続していく必要がある。